

2018年への視座

（二財）日本総合研究所会長
寺島 実郎

- * アップサイドダウンになった世界
- * 異様に歪んだトランプ政権の経済政策
- * 米国の西海岸と東海岸に感じる温度差
- * 世界同時好況の実相
- * アジアは日本にとってますます重要に劣化してきた日本のモノづくり
- * 中間層の没落が進む日本
- * 賃金が増えなくなった理由
- * 到来する超高齢時代の衝撃
- * 日本に欠けているジェロントロジー



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

1年半ぶりになりましたが、今年も寺島さんに来ていただきました。皆さんもよくご存じだと思いますが、早稲田大学で修士をとられた後、三井物産に入られ、戦略研究所の所長をされ、その後、現在、日本総研会長と多摩大学の学長をされておられます。

歴史的な視点を持って世界の動きをきちんと判断をし、われわれの今後の見通しというものをつくるに当たっては、いちばんふさわしい方のお話を今日聞けると思います。世界が流動化して、たいへん難しい状況が見えてきています。日本人は島国にいて、至ってのんきに暮らしているようでございますが、これからなかなかさうもいなくなるかもしれない。そういったこ

とを含めて、今日はいつものように含蓄のあるお話が伺えると思います。

それでは寺島さんよろしくお願いいたします。（拍手）

アップサイドダウンになった世界

寺島 寺島でございます。定点観測のようにこの会には参加させていただいています。

相変わらず外を動いています、来週からまた東海岸ですけれども、この夏も振り返りますと、東海岸、西海岸、それから欧州、アジア、ついこの間はモンゴルまで行ってきまして、世界から日本を見る機会が多いというのが私の議論の特色だと思います。

『寺島実郎の時代認識』2018年新年号速